

エアミス  
**Airmys**

**非実在 探偵小説研究会**

**19**<sub>号</sub>

モ  
ラ  
イ  
ウ  
ケ  
ル

首  
一  
ツ

千  
ノ  
邸  
ニ  
テ

**エアミステリ研究会**

# 非実在探偵小説研究会19号 目次

## 企画

企画1 お題競作 「切断」

ミッシングリンク・ミッシング

《黒の少女像》

家族は切断について考えてみた

ギロチン館の殺人鬼

神崎蒼夜

田中大牙

佐倉丸春

麻里邑圭人

企画2 二〇一九年度エアミス研ミステリランキング

企画3 ショート・ショート

.....

## その他

【和翠の図書館】 松井和翠

序

第一回 掌篇百撰

掌篇百撰 座談会

つかまえてシリーズ全作レビュー中編

ないとー

松井和翠×浅木原忍×小野家由佳×鷺羽巧

.....

表紙・扉ページ

ウスタアヤ

177 138 108 106

156 100 66 55 41 6

# ミッシンゲリク・ミッシンゲ

かんざきそうや  
神崎蒼夜

てつきりこの会の創始者は年齢的にも還暦を過ぎてい

る御影みかげさんのだろうという思い込みがあったのだが、その

ことを木崎きざきさんに問うてみたところ、「いや、あの人はむしろ後期のメンバーだ。なんでも、日々崎ひびざきさんに場所を提

供し始めた縁で、入会する運びになったらしい」との話を聞かされた。では日々崎さんが創始者？ と口から続けざまに言葉が出そうになったが、『いやいや、あの人がわざ

わざ人を集めてまで色々と話し合う会を自分から作るわけがないな』との考えが浮かんで、結局モゴモゴと口を動かすだけに終わった。

しかしそこは無口でぶつきらぼうだが察しがいい木崎さん。なんとなくぼくが聞きたかったことの意図も察してく

れたようで、「創始者は俺でもわからん。もしかしたら羽柴はしばさんなら知っているかも」とアドバイスしてくれた。

羽柴さんか、なるほど。彼女がこの会に出席することは

まちまちではあるが、今度の会には来ることだろうし、そ

の時にでも聞いてみることにしよう、そうしよう。

え？ どうしてそこが予想できるのかだつて？ それは

勿論もちろん、今度のテーマが今もつともホットな犯罪者、《切断師せつだんし》についてだからだ。

こうして先週の思い出を振り返っていたぼくの思考だが、カツンという机にグラスが無造作に置かれた音で中断させられた。

「何か考え事をしていたようですが、大丈夫かい白鷺しろいさづくん」にこやかな表情で佐橋さばしさんが、こちらのことを慮おもんばかつて

くるようにそう話しかけてきてくれた。しかし内心では、『俺が話そうとしているのに、ポーっとしてんじゃねえよ』

と思っているに違いない。

「いやあ今回はテーマがテーマだけに、ちよつと色んなサイトとかもめぐってみたりしたせいで、こここのところ寝不足気味です」

言い訳のようにそうまくしたてながら（実際に言い訳で

ある。そんなサイトを閲覧したことなどないのだから、ぼくは姿勢を正し、目の前の円形の机の上に置かれているラントンを注視する。頭上にあるシャンデリアは灯されているが、明かりはギリギリまで絞られており、部屋の中はかなり暗い。毎回思うのだが、どうしてこうも御影さんの趣味というのは、どこかオカルティックなのだろうか。まあ聞いたところで、『だってそのほうが雰囲気は出るだろう？』と返されるのがオチである。階下で普通に営業している喫茶店の内装からしてそうなのだから、仕方ないことなのであろう。

「今回は全員出席かしら」

左隣の羽柴さんから声ときつめの香水の匂い——いや違うな、これはお酒の匂いだ——がする。

「そうみたいですよ、珍しい」

右隣からは木崎さんのぶっきらぼうな声がする。

「羽柴さんが出席するのは二回ぶりですからね。日々崎さんも前回は来られなかったですし」

左前方からは、まだ席に着かずに立っているのほほんとした御影さんの声。

「前の時はなんだ、ほら、ちよつと予定が詰まっています……」

前方から日々崎さんの声。

「ははっ。おおかた記事にならなそうな話題だから来なかっただけでしよう」

右前方からさらりと一蹴する佐橋さんの声。

「興味がなかったら来ない、それは当たり前のことだ。全部に律義に出席している俺たち三人がどこかおかしいんだ」

右からの木崎さんの声。これは日々崎さん擁護ようごではなく、木崎さんの本心だろう。「興味がない事件にあーだーこうだと水を差し茶々を入れる人間が俺は嫌いだ」と、以前ぼくに愚痴ったことをたまに思い出す。

「まあこうして集まったことですし、雑談よりも議論に費やしましょうよ。それが目的でこうして集まっているわけですよ」

ぼくの言葉に「そうだね」と御影さんが鷹揚に頷きながら応える。

「それじゃあ私はコーヒーを淹れてくることにしよう。その間に君たちは各自準備をしておいてくれたまえ。頼んだよ」

そう言いながらワインクをこちらへよこす。そうして席を立つと、暗闇に包まれた階下へと続いている階段に消え

ていった。すると入れ替わる様にその暗闇から、すつと影のように黒いシルエツトが現れた。

「やあ西野さん、いらつしやい」

全身黒装束姿で登場した西野さんは、佐橋さんの歓迎の声に応えることなく、こちらをチャリとだけ一瞥し、このテーブルから少し離れた椅子に腰を落とす。これは会の直接の参加者でない彼のいつもの行動なので、こちらも氣にすることではない。

さて。これで主要な人物は出揃つたし、後は会が始まるのを待つだけである。《切断師》についてもこれから追々わかることだ、もうちよつと待つていただきたい。

\*

「じゃあ最初の事件からおさらいしていくことにしますか」  
コーヒーが全員の手に行き渡り、御影さんが席に着いたのを確認すると、今度は佐橋さんが入れ替わる様に席から立ち上がり、部屋の隅からホワイトボードをガラガラと引張ってくる。

「まあこんなことを説明しなくても、我々の頭にはとうに全部の知識が入つているとは思いますが、一応念のための

復習も兼ねてやつていくことにしましょう。もしかしたら新発見もあるかもしれませんよ。ね、日々崎さん」

急に話の矛先を向けられた日々崎さんは、バツの悪そうな顔で「はっはっは」と笑う。これは日々崎さんが、以前行われた会の進行役の時に、誤つた情報をホワイトボードに書きだし、我々に混乱をもたらした出来事からきている。それ以降、会の最初に事件の概要を全員で確認するのが慣例になりつつあるのだ。

「さて、まず《切断師》のデビュー戦からいきましようか。今から一月前の三月二十二日の日曜日。早朝五時頃、一本松神社前の路上で、男性が胸から血を流して倒れているのをランニング中だった近くの住人が発見し、警察と救急に通報。駆け付けた警官により死亡が確認された。被害者は新井弁慶、六十五歳。この神社の近くに住んでいた男性で、死亡推定時刻は前日の午後十一時から翌三時にかけての間という、真夜中の凶行ということ。なぜそんな時刻に被害者が出歩いていたらのかとの理由ですが、深夜の徘徊というわけではなく、その時間に犬の散歩をするのが日々の日課だったとのこと。その犬は凶行の被害にあわず、被害者宅の犬小屋で、身体に被害者の物と思われる血痕を付けた状態で発見されました。とかくまあ犬の話は

蛇足になってしまいました……。死因は背後からナイフで心臓を刺されたことによる刺殺。被害者は一度そのままうつ伏せで倒れたようですが、犯人はナイフを抜き取り、死体をうつ伏せからおむけの状態にして現場から立ち去りました。もしこの時にナイフが抜かれなければ、それが栓の代わりになり死体の周囲に血だまりが出来るほど血液は流れなかったのですが、わざわざ凶器を持ち去って行ったわけです。けれど、犯人の真の目的は凶器を持ち去ることでありませんでした」

ここで佐橋さんはホワイトボードに磁石で写真を貼り付ける。

「ご覧のように……といっても、皆さんもう何度も目にしていてでしょうし、驚きはないでしょうが。まあ見ての通り、被害者の身体からは両方の眼球が奪われていたのです」

「さらりと遺体の写真を貼ったわね」羽柴さんが呟く。

「まあ、みんなもう慣れてるでしょ」ひょうひょう 飄々と言う佐橋さん。

「たしかに慣れましたけれども」だからといって、さらりと貼っていい代物ではない。

「問題ない、早く話を続ける」事件以外関心がない木崎さん。たまに人の心も持ち合わせていないのではという気持ち

ちにもさせられる。

「では賛成多数ということで本題に戻らせていただきますね。被害者からはこのように、両目から眼球が抜き取られていました。目からも血が流れていた跡があることを不審に思った警官が確認のために閉じていたまぶた 瞼を押し上げたところ、そこにはほつかりと穴が広がっていたと……。びつくりしたでしょうねえ」

しみじみとした口調で言うが、本心からそう思っているのか判断がつかない。

「両目ともえぐられているという報告と殺害の手口から、捜査の方針は強い怨恨の線で進められたようですが、一向に容疑者が浮かび上がってはきません。被害者は穏やかに暮らしている小市民的な生活を送っていた好々爺のようで、そんな穏やかじゃない殺し方をされるほど恨みを買っていなかったということも調べで判断したからです。まあ耳が遠くなってきたので、多少声がうるさいくらいの陰口は近所で叩かれていたようですが、それで殺害の原因になったとは考えにくいですね。」

続きは非実在探偵小説研究会19号  
本誌でお楽しみください。

## 企画2 2019年度エアミス研ミステリランキング

エアミス研研究会が選んだ2019年度のミステリランキングです。2018年9月～2019年10月の間に発売された国内ミステリ新刊書を対象としています。投票者が選んだ5作品を1位：5点、2位：4点…5位：1点として集計しました。

各作品レビュー：麻里邑主人

### 【総評】

2019年度は力作、傑作がひしめく、なかなかの豊作の年となった。昨今流行りの特殊設定ミステリがランキングの半数以上を占める中、その最先端というべき今村昌弘「魔眼の匣の殺人」が頭1つ抜けて1位を獲得。前作「屍人荘の殺人」に勝るとも劣らないその完成度で圧倒的な強さを見せた。

ちなみに今村昌弘がエアミスランキングで1位を獲得するのは2017年度の「屍人荘の殺人」に続いて二回目のことであり、これは十年の歴史があるエアミスランキングにおいて麻耶雄嵩以来の快挙である（2011年度に「メルカトルかく語りき」、2014年度に「さよなら神様」で1位を獲得）。

また新鋭が上位を占める今回のランキングで一際異彩を放っているのは大ベテラン・平石貴樹の存在である。5位にランクインした「潮首岬に郭公の鳴く」はかの名作「獄門島」に挑んだ直球の本格ミステリで、対象期間ギリギリの10月末に刊行されたにも拘わらずこの順位はさすがと言ったところだろう。かの名作に挑んだという点では7位にランクインした柄刀一「或るエジプト十字架の謎」も同様で、クイーンの名作シリーズをテーマにしつつも作者らしいセンスが光る作品となった。その他、所謂なろう系発の片里鷗「異世界の名探偵 1 首なし姫殺人事件」が10位に滑り込んだのは大健闘と言えるだろう。

### 1位 今村昌弘「魔眼の匣の殺人」【163点】

今村昌弘版「霧越邸殺人事件」とも言うべき傑作。前作「屍人荘の殺人」に引き続きクローズドサークルを扱いつつ未来予知という特殊設定を巡る連続殺人劇を描いた本作は、作者が「屍人荘の殺人」だけの一発屋ではないことを十二分に証明してくれるだろう。

### 2位 阿津川辰海「紅連館の殺人」【110点】

落雷による山火事が発生し炎が差し迫る館の中で死者が出てしまう。殺人か、事故か。新機軸の本筋に古今東西の名作のエッセンスが盛り込まれ、章が

変わると共に作品が変貌していく。コース料理のように手を替え品を替えて読者を楽しませてくれる贅沢な作品。

### 3位 相沢沙呼「medium 霊媒探偵城塚翡翠」【101点】

書店員の絶叫宣伝が話題になった鮎川賞作家の最新作。推理作家の主人公は霊媒師美女による死者の言葉を借り難事件を解決に導いていく。そんな中で連続殺人鬼の魔の手は彼女に差し迫っていた。「神様ゲーム」から始まった分野をまた突き詰めた作品。

### 4位 伊吹亜門「刀と傘 明治京洛推理帖」【73点】

第十二回ミステリーズ！新人賞受賞作「監獄舎の殺人」含む、鹿野師光と江藤新平が探偵役を務める時代ミステリ連作。時代設定を活かした仕掛けもさることながら、この二人を探偵役に選んだことにも意味がある本格ミステリ大賞受賞も納得の作品である。

### 5位 平石貴樹「潮首岬に郭公の鳴く」【61点】

美しき三姉妹が芭蕉の句の見立てによって次々と殺されていく「獄門島」本歌取りの傑作。トリックとロジック、そして動機が形成するその美しさはかの名作と比べても決して引けを取らない、むしろ動機に至っては凌駕しているといっても過言ではないだろう。

### 6位 白井智之「そして誰も死ななかつた」【54点】

本作を一言でいうなら鬼畜系特殊設定パズラーとして生まれ変わった(!)「そして誰もいなくなつた」。奇想が炸裂する多重推理の連続に眩暈を覚えること必至である一方で、白井作品の中では比較的(?)人に勧めやすいのも何気にポイント高し。

### 7位 柄刀一「或るエジプト十字架の謎」【51点】

クイーンの国名シリーズをテーマにした四つの事件に作者の看板探偵の一人・南美希風が挑む連作ミステリ。元ネタの作品を作者がどう料理したのかという点は勿論のこと、ロジック物が好きな読者にとってはこの上ない贈り物となることだろう。

### 8位 方丈貴恵「時空旅行者の砂時計」／米澤穂信「本と鍵の季節」【43点】

「時空旅行者～」は雪に閉ざされた館で起きる連続見立て殺人にタイムトラベルを盛り込んだ第29回鮎川哲也賞受賞作。一方「本と鍵の～」は米澤穂信という作家に読者が求めている青春ミステリとして申し分ない日常の謎連作だ。

### 10位 片里鷗「異世界の名探偵 1 首なし姫殺人事件」／澤村伊智「予言の島」



【38点】

「異世界の名探偵」は満を持して(?)登場した異世界転生物×読者への挑戦付き本格ミステリ。一方「予言の島」はホラーの書き手が初めて書いた長編ミステリで今流行りの未来予知に挑んだ意欲作である。

《10位以下の作品》

【37点】 アンソニー・ホロヴィッツ「メインテーマは殺人」／古野まほろ「時を壊した彼女 7月7日は7度ある」

【32点】 青崎有吾「早朝始発の殺風景」

【30点】 手代木正太郎「不死人の検屍人 ロザリア・バーネットの検屍録 骸骨城連続殺人事件」

【28点】 早坂吝「殺人犯 対 殺人鬼」

【27点】 陳浩基「ディオゲネス変奏曲」

【22点】 ポール・アルテ「金時計」／三津田信三「魔偶の如き齋すもの」

【21点】 深水黎一郎「犯人選挙」

【20点】 白井智之「お前の彼女は二階で茹で死に」／スチュアート・タートン「イヴリン嬢は七回殺される」

【18点】 法月綸太郎「法月綸太郎の消息」／早坂吝「犯人IAのインテリジェンス・アンプリファー」

【17点】 陸秋槎「雪が白いとき、そのときに限り」

【15点】 米澤穂信「Iの悲劇」

【14点】 青柳碧人「むかしむかしあるところに、死体がありました。」／辻真先「焼跡の二十面相」

【12点】 浅倉秋成「教室が、ひとりになるまで」

【10点】 高田大介「まほり」／武田綾乃「その日、朱音は空を飛んだ」

【9点】 酒本歩「幻の彼女」／高村薫「我らが少女A」／皆川博子「夜のアポロン」／吉上亮「泥の銃弾」／詠坂雄二「君待秋ラは透きとおる」

【8点】 宇佐美まこと「いきぢごく」／島田荘司「盲剣楼奇譚」／知念実希人「ムゲンのi」／葉真中顕「Blue」／夕木春央「絞首商會」

【7点】 一本木透「だから殺せなかった」／階知彦「火曜新聞クラブ 泉杜毬見台の探偵」／矢樹純「夫の骨」／結城真一郎「名もなき星の哀歌」／雷鈞「黄」

【6点】 大澤めぐみ「彼女は死んでも治らない」／久住四季「推理作家（僕）が探偵と暮らすわけ」／紫金陳「知能犯之罟」／城平京「虚構推理 スリーピング・マörder」／スティーヴン・キング&ベヴ・ヴィンセント編「死んだら飛べる」／辻村深月「小説 映画ドラえもののび太の月面探査記」／道尾秀介「いけない」

【5点】 浅倉秋成「九度目の十八歳を迎えた君と」／長岡弘樹「救済 SAVE」／古野まほろ「終末少女 AXIA girls」／ルーパート・ペニー「密室殺人」

【4点】 石川智健「キリングクラブ」／葉真中顕「W県警の悲劇」

【3点】 有栖川有栖「カナダ金貨の謎」／井上真偽「ベーシックインカム」／倉井眉介「怪物の木こり」／河野裕「きみの世界に、青が鳴る」／森川智喜「そのナイフでは殺せない」

【2点】 青柳碧人「浜村渚の計算ノート 9さつめ 恋人たちの必勝法」／岡崎琢磨「道然寺さんの双子探偵 揺れる少年」／小林泰三「人外サーカス」／ニクラス・オ・ダーグ「1793」／松井玲奈「カモフラージュ」／横山秀夫「ノースライト」

【1点】 アンデシュ・ルースルド&ベリエ・ヘルストレム「地下道の少女」／大沢在昌「帰去来」／北村薫「中野のお父さんは謎を解くか」／Q・パトリック「八人の招待客」／月原渉「犬神館の殺人」／鳥飼否宇「天災は忘れる前にやってくる」／円居挽「さよならよ、こんにちは」／連城三紀彦「虹のような黒」／若竹七海「殺人鬼がもう一人」

# 2019年度漫画・ゲーム・映像ミステリランキング

漫画、ゲーム、映像、その他を対象とした、ランキングです。対象期間、集計方法はミステリランキングと同様です。

各作品レビュー：麻里邑主人

## 【総評】

2019年度はいつになく票がバラける年となった。言い換えれば、それだけ小説以外の媒体でミステリを扱うことが増えた証拠なのかもしれない。そんな中、辛うじて(?) 票を集めたのは「Q.E.D.iff 一証明終了」14巻と「ロード・エルメロイII世の事件簿 魔眼収集列車」の二作品である。どちらもファンが多い作品ながら「Q.E.D.iff 一証明終了」が現実世界が舞台の正統派本格ミステリであるのに対し「ロード・エルメロイII世の事件簿 魔眼収集列車」は人気ゲームFateシリーズ発祥のファンタジームステリと、対極とも言える二作品が上位を占めたのはなかなか興味深いと言えるだろう。

## 1位:「Q.E.D.iff 一証明終了」14巻 (漫画) 【10点】

記憶喪失の老人が持っていた1億円の謎「1億円と旅する男」、あるデータを巡り各国が繰り広げるコンゲーム「メモリ」の二編収録。特に「1億円と旅する男」は『感動は落差』という言葉こそ相応しい悪魔的な真相が読者に強烈な印象を残すだろう。

## 2位:「ロード・エルメロイII世の事件簿 魔眼収集列車」(TVアニメ) 【8点】

「Fate/Zero」に登場したウェイバー・ベルベットをフィーチャーした、三田誠が手掛ける小説をTVアニメ化。魔術×事件×戦闘を謳った本作は、上遠野浩平の戦地調停士シリーズなどが好きなら楽しめる作品である。

## 《3位以下の作品》

【5点】 「世にも奇妙な物語 さかさま少女のためのピアノソナタ」(TVドラマ) / 「名探偵コナン 第946～947話 呪いの宝石ボルジアの涙」(TVアニメ) / 「神と共に 第一章 罪と罰」(映画)

【4点】 「京都美人華道家殺人事件」(「金田一37歳の事件簿」4～5巻/漫画) / 「再生の時」(「Q.E.D.iff」12巻/漫画) / 「神と共に 第二章 因と縁」(映画)

「ルパンの娘」(TVドラマ) / 「3年A組 今から皆さんは、人質です」(TVドラマ) / 「時効警察はじめました 第2話」(TVドラマ) / 「変身」(「ようこそ！アマゾネス☆ポケット編集部へ」/漫画)

【3点】 「名探偵コナン 紺青の拳」(映画) / 「十二人の死にたい子どもたち」(映画)  
「あなたの番です」(TVドラマ) / 「ミステリと言う勿れ」5巻(漫画) / 「いつだってやめられる 闘う名誉教授たち」(映画)

【2点】 「イジラレ～復讐催眠～」(漫画) / 「相棒 season17 第20話 新世界より」(TVドラマ) / 「ザンビ」(TVドラマ) / 「惑う鳴鳳荘の考察」(ゲーム) / 「ギルティ」(映画)

【1点】 「みっしんぐりんくじゃけん！」(「じけんじゃけん！」5巻/漫画) / 「ハッピー・デス・デイ」(映画) / 「ゆで理論殺人事件」(漫画) / 「マローボーンの掟」(映画)

投票へご協力ありがとうございました。





---

## 非実在探偵小説研究会～Airmys～19号

発行日 2020年5月6日  
発行 エアミステリ研究会  
連絡先 airmysdj@gmail.com  
<http://www43.atwiki.jp/airmys-dj/>  
価格 900円  
印刷所 株式会社ポプルス

### Special Thanks

編集作業をお手伝いして下さったエアミス研有志メンバー

©2020 エアミステリ研究会 作品の著作権は各著作者に帰属しています